

JPモルガン チェース(JPM)

【セクター】 銀行

【市場】 NYSE

【企業概要】

世界有数の金融グループ。2000年にJPモルガンとチェースが合併。JPモルガンは大企業、機関投資家、富裕層個人向けに投資銀行、資産管理、プライベートバンキングなどを展開。チェースは米国内の個人や中小企業向けに商業銀行サービスを提供。2021年12月期の純利益構成比は、コンシューマー&コミュニティバンキング40.2%、コーポレート&インベストメントバンク40.6%、コマーシャルバンキング10.1%、アセット&ウェルスマネジメント9.1%。2022年9月末の総資産は3.8兆ドル。

【業績】 (単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース)

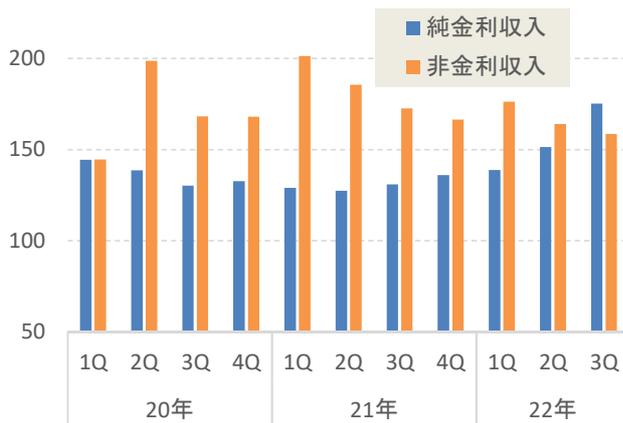
決算期	営業収益	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
20.12期	129,911	27,410	8.88	3.60	81.7	11.3	8.3
21.12期	127,202	46,503	15.36	3.80	88.1	18.3	7.9
22.12期(予)	130,760	34,135	11.53	4.00	89.5	13.1	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

(出所) BloombergのデータよりSBI証券作成

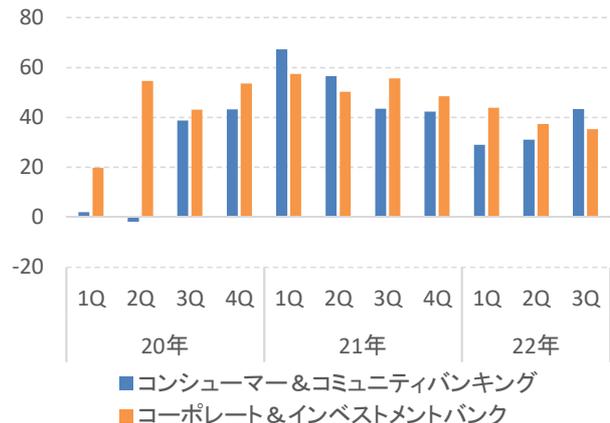
【主要指標】

純金利収入と非金利収入 (億ドル)



(出所) 会社資料よりSBI証券作成

主要部門の純利益推移 (億ドル)



(出所) BloombergのデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

同社は投資銀行、消費者向け金融サービス、商業銀行など金融の様々な分野で市場リーダーのポジションにあり、これをテコに長期的に収益性と事業の成長を確保していくと期待されます。2020年のパンデミック以降の動きを主な収入別にみると、純金利収入は長期金利の動向に沿ってパンデミック発生後に低下、足もとでは長期金利上昇を受けて回復しつつあります。一方、非金利収入は、パンデミック時に相場の変動性が高まったことや、株式市場の上昇が続いたことから一時急増しました。しかし、その後は巡行速度に向けて低下基調となっています。主要部門の純利益では、消費者向けサービスは安定推移、投資家サービスは持ち直しつつあり、投資銀行は落ち込んでいることがわかります。

【見通し・注目点】

7-9月期の営業収益は前年同期比10%増、EPSは同17%減でした。EPSの減少は前年同期に信用コストがマイナスとなっていた特殊要因の反動で、4-6月期比では13%増と堅調です。純金利収入は金利上昇を受けて前年同期比34%増、非金利収入は同8%減でした。部門別には預金額やカードの利用額が増えた消費者向け事業が堅調でした。ダイモンCEOは、自己資本比率が十分に高まっていることから、来年のはじめには自社株買いを再開したいとの意向を表明しています。

## 本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

## 手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。